

※文字の大きさは Meiryo UI / 12 ポイント以上とし、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※各項目の枠の幅は変更可能ですが、必ず A3 用紙片面におさまるように作成してください。
 ※画像、写真、イラスト等は、用紙の中におさまるようにし、ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式 2】

<p>研修成果の活用レポート/NITS 大賞エントリーシート</p> <p>※研修成果の活用レポートは、NITS 大賞エントリーシートと同様式です。NITS 大賞に応募される方は、推薦者への提出とは別に、<award@ml.nits.go.jp>宛て、メールにてお送りください。なお、メール送信後、3 日以上受領メールが届かない場合はご連絡ください。</p>	<p>※事務局記入欄</p> <p>受理No. : A-35</p>
<p>【学校名・氏名】 秋田県能代市立湊城西小学校 教諭 嶋田 康弘</p>	<p>【応募部門】</p>
<p>【修了研修名】 平成30年度 第2回 中堅教員研修</p>	<p>カリキュラム・マネジメン ト実践部門</p>
<p>【活動名】 スクラップ&ビルドの推進 ～SWOT分析による実態把握から～</p>	
<p>解決すべき課題： ※活動を行う前に、どんな課題設定をしましたか？</p> <p>今年度の本校の学校教育目標は、「未来をつくり、社会を支えていく高い志をもった子どもの育成」である。実現に向けて進む中で、ふるさと学習の教科横断的な取り組みに課題があることや行事の精選、ねらいの明確化が不十分であることが見えてきた。今回、全職員で自校の課題を改めて見つめ直し、各教員がそれぞれの立場でマネジメントを実践していくための一助となるように、研修会を実施した。</p>	
<p>目標・方針： ※課題を解決するためにどんな目標や計画、戦略や方針をたてましたか？</p> <p>(1) カリキュラム・マネジメントについての研修会を行う。 (2) SWOT分析で自校の現状を捉え、改善策を考える。</p>	
<p>活動内容： ※何を行ったか、具体的に記載してください。</p> <p>(1) カリキュラム・マネジメント研修会 8月の後半に、中央研修で学んだ奈良教育大の赤沢早人先生の講義資料データを活用し、カリキュラム・マネジメントについての校内研修を行った。教育課程と教育課題がうまく結びついていない日本の教育の現状を知ることからはじまり、カリキュラム・マネジメントの実践として「具体的に何をするのか」について改めて学ぶ機会となった。カリキュラム・マネジメントの3つの側面を理解することで、本校の課題である「教科横断的な取り組み」をどのように考え、どのように実践していけばよいのか、ビジョンを共有することができた。</p> <p>(2) SWOT分析による学校の実態把握と改善策の提案 1月中旬に、群馬大学の高橋望先生の講義資料を活用して、「マネジメントの実践」についての研修会を行った。SWOT分析の内容や方法、特徴などについて学んだ後、全体で演習に取り組んだ。はじめに、内部（学校の内側）・外部（学校の外側）の環境分析を行った。学校をとりまく客観的な特徴や事実について、プラスに働く場合とマイナスに働く場合について考え、グループごとに話し合い、まとめた。その後、クロス分析に取り組み、例えば内部の強みで外部からの阻害的要因を克服することを考えたり、内部の弱みを外部の力を借りて克服することを考えたりした。問題解決や危機管理の視点を大切にしながら、プラス思考で進めることができた。 最後に実行策の検討・創出に取り組んだ。付箋に書いた実行策について、その効果性と着手容易性を踏まえ、学校の特色づくりとつなげながら話し合うことができた。</p>	

①

学校教育目標
 未来をつくり、社会を支えていく
 高い志をもった 子どもの育成

目指す子ども像

- 仲良くする子ども
- 心と体をきたえる子ども
- 進んで学ぶ子ども

②

△ふるさと学習の教科横断的な取り組みに課題が見られる。



→総合的な学習を中心とした年間計画の効果的な活用を進めていく。

③

カリキュラム・マネジメントの3つの側面

- ①児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと。
- ②教育課程の実施状況を評価して、その改善を図っていくこと。
- ③教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保し、その改善を図っていくこと。

④

SWOT分析



自校の客観的な特徴や事実を付箋に書き出し、分析結果の意見交換をする。

⑤

クロス分析



事実をかけ合わせて、次の一手を考える。実行策の発表。

⑥

各学校の教育活動の質の向上へ



活動の成果： ※それによって、どんな成果が得られましたか？

研修後、先生方から次のような感想を聞くことができた。

- カリキュラム・マネジメントといえば、主に管理職の先生や教務主任がやることだと思っていましたが、全ての教職員が、それぞれの立場でマネジメント実践していく必要があることを改めて確認することができた。マネジメントとは、つまりはちょっとした工夫・やりくりであることが心に残った。
- SWOT分析による学校の実態把握から、目標と現状のギャップを捉え、問題解決へのプロセスについて考えることができた。やってみると発展する可能性のある実行策や、長期的なプランで実施していくとよい手法などたくさんのアイデアに触れることができた。

研修会を実施することで、全職員の現状認識の共有、問題意識の共有、目標の共有ができた。今回の学びを生かして、各自がそれぞれの立場で、来年度へとつながるような見通しをもつことができた。

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- ① 改めて学校教育目標や重点項目を確認し、全職員で共有化する場を設けることで、全職員が大きな目標（ビジョン）に向けて、全体で協働的に取り組むことができるようにした。
- ② 毎日勤務している自校の課題についても、複数の目で分析することで、より一層明確に、具体的な一手が見えてくることにつながった。